

平成18年度インフルエンザワクチンの需要について（案）

1 調査結果概要

① 医療機関調査

抽出医療機関（5,099施設）に対し、平成17年度の世代別のインフルエンザワクチン接種人数、接種回数及び次シーズンの需要量の調査票をシーズン前に発出し、シーズン終了後に回収。（単位 万本）

	推定値①	推定値②
幼児・児童（13歳未満）	417.0	417.0
成人（13～64歳）	1,029.2	1,096.4
高齢者（65歳以上）	745.0	764.4
合計	2,191.2	2,277.8

- ※ 推定値①は、幼児・児童が2回接種、成人及び高齢者が1回接種とした場合
- ※ 推定値②は、幼児・児童が2回接種、成人（1回が93.5%）及び高齢者（1回が97.4%）の1回接種・2回接種の割合が現状どおりとした場合。
- ※ 推定値①及び②は、昨年の接種人数に係る予測値及び実績推定値のずれを補正したもの

② 世帯調査

世代別に住民への郵送によるアンケート調査（1858世帯 10398人）をシーズン終了後に実施し、以下の需要見込本数を算出。

年齢階層別での検討した場合（単位 万本）

	推定値③	95%信頼区間
幼児・児童（13歳未満）	718.1	690～746
成人（13～64歳）	923.3	886～961
高齢者（65歳以上）	505.7	459～553
合計	2147.1	2,035～2,261

- ※ 推定値③は、幼児・児童が2回接種で6000円、成人は1回接種の割合が100%とした場合で、1回の接種費用が3000円、高齢者は1回接種で1500円とした場合。

2 次シーズンの需要検討の案

今回の医療機関等調査と世帯調査によってワクチンの需要を調査した結果、2つの調査の結果から、今冬のワクチン需要は2,150万本～2,280万本程度であり、本年度のワクチン製造メーカーの製造量は最大で2,300万本程度となる見込みであり、十分な製造・供給能力は確保されている。

インフルエンザワクチンの需要は、鳥インフルエンザの流行状況などの報道等により変動する可能性があることを考慮する必要がある。しかしながら、世帯調査での付加的な需要予測（420万本）は、日本国内での人の患者が発生した場合の数字であり、また、その場合は新型インフルエンザ対策として通常のインフルエンザワクチンは有効ではないことから、通常のインフルエンザワクチンにおいては需要が発生することは考えにくい。

<参考>

今冬のインフルエンザワクチン製造予定量の最大量は、現時点で4社合わせて計2,300万本である。しかし、インフルエンザワクチンの製造量は、ウイルスを鶏卵で増殖させて製造するため、ウイルスの増殖力、気温、鶏卵の質等に大きく影響を受けるため、この製造予定量はあくまでも現時点での目安である。

鳥インフルエンザの国内ヒト感染例が発生すれば、インフルエンザ予防接種の需要が大幅に伸びるが、通常のインフルエンザワクチンは鳥インフルエンザの予防には効果がなく、過剰な需要が発生し、ワクチン不足に陥らないように適切な対応を行う必要がある。

(参 考)

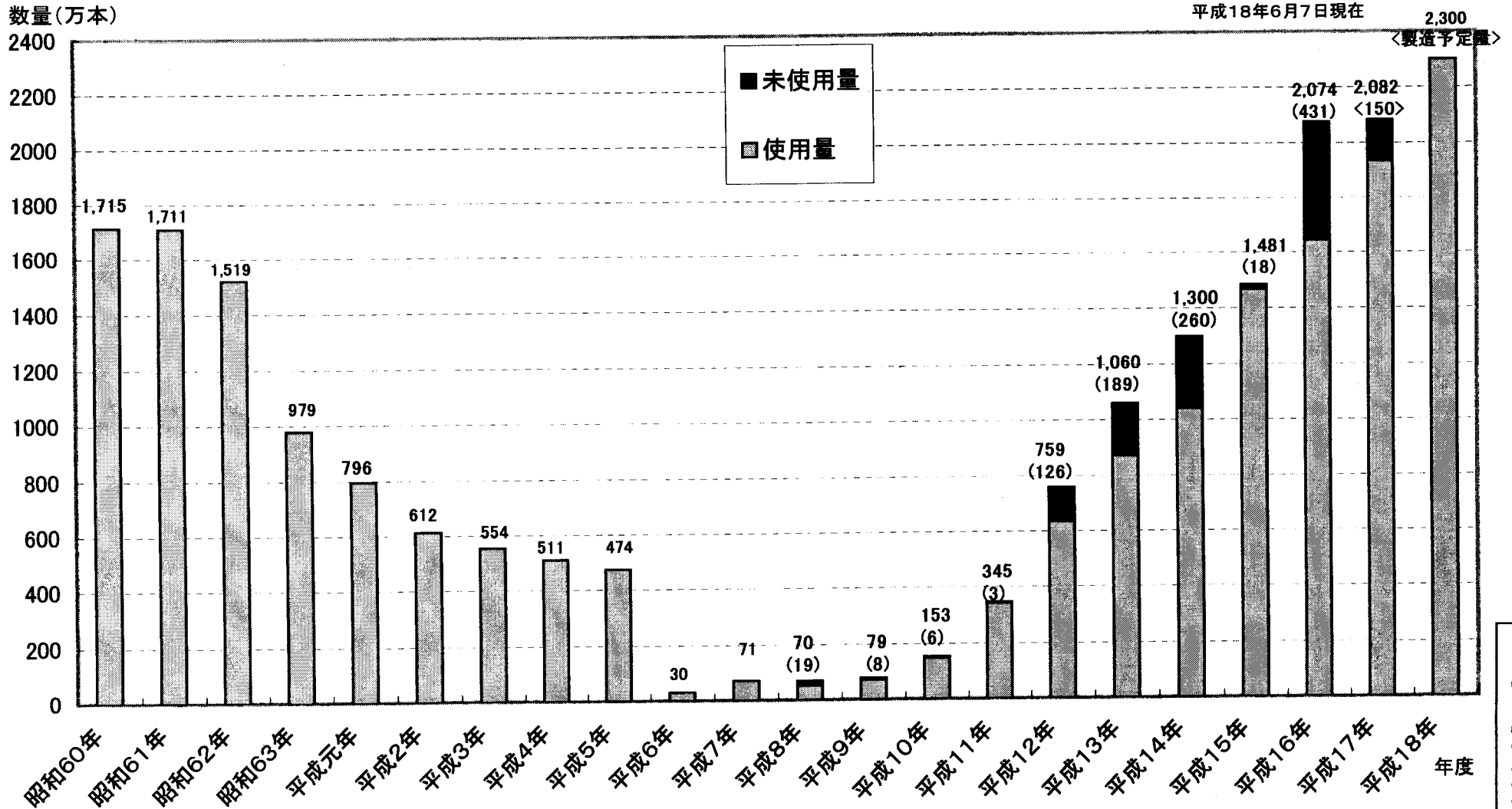
昨年（平成17年）の予測と実績

(単位 万本)

予測値最大	予測値最小
2, 1 5 4	2, 0 5 7

製造量	医療機関納入	医療機関使用
2, 0 8 2	2, 0 2 7	1, 9 3 2

インフルエンザワクチン製造量の推移



グラフ中の数字は、製造量
()は未使用量(内数)

※平成7年以前の未使用量については不明。
※未使用量には返品数と流動在庫が含まれる。

インフルエンザワクチン各種接種率の比較

	需要予測における推定接種(見込)率								需要検討会 高齢者予防接種状況調査報告	結核感染症課 予防接種実施率
	医療機関調査				世帯調査					
	13歳未満	13歳～65歳未満	65歳以上	全体	13歳未満	13歳～65歳未満	65歳以上	全体	65歳以上(60歳以上・65歳未満の特定疾患者含む)	65歳以上(60歳以上・65歳未満の特定疾患者含む)
平成14年度	20.7%	7.1%	42.7%	15.1%	19.1%	8.4%	54.3%	17.2%	35.3%	35.4%
平成15年度	28.8%	12.1%	52.7%	21.3%	27.2%	13.8%	49.0%	21.4%	44.5%	43.4%
平成16年度	38.1%	14.5%	48.2%	23.9%	32.2%	17.4%	54.0%	25.0%	46.6%	-
平成17年度	51.7%	15.1%	51.1%	26.5%	36.7%	19.9%	58.4%	28.4%	51.7%	-
平成18年度(見込み)	53.6%	22.8%	58.1%	33.3%	48.9%	22.2%	56.0%	32.7%	-	-

平成18年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口	
	17,536,000	84,517,000	25,737,000	127,790,000	
接種率(%)	53.6	22.8	51.7		
接種人数	9,399,296	19,269,876	13,306,029		
接種回数	2	1.11	1		
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5		
使用本数	4,699,648	10,694,781	6,653,015		合計本数 22,047,444

平成17年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口	
	17,536,000	84,517,000	25,737,000	127,790,000	
接種率(%)	51.7	15.1	51.7		
接種人数	9,066,112	12,762,067	13,306,029		
接種回数	2	1.11	1		
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5		
使用本数	4,533,056	7,082,947	6,653,015		合計本数 18,269,018

平成16年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口	
	16,494,000	86,317,000	24,878,000	127,689,000	
接種率(%)	38.1	14.5	46.6		
接種人数	6,284,214	12,515,965	11,593,148		
接種回数	2	1.11	1		
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5		
使用本数	3,142,107	6,946,361	5,796,574		合計本数 15,885,042

平成15年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口	
	15,401,000	87,910,000	24,310,000	127,621,000	
接種率(%)	28.3	14.4	44.5		
接種人数	4,358,483	12,659,040	10,817,950		
接種回数	2	1.11	1		
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5		
使用本数	2,179,242	7,025,767	5,408,975		合計本数 14,613,984

平成14年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口	
	15,523,000	88,282,000	23,629,000	127,434,000	
接種率(%)	21.0	9.3	35.4		
接種人数	3,259,830	8,210,226	8,364,666		
接種回数	2	1.11	1		
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5		
使用本数	1,629,915	4,556,675	4,182,333		合計本数 10,368,923

平成13年度	乳幼児・小学生	成人等	高齢者	総人口	
	15,616,000	88,809,000	22,867,000	127,292,000	
接種率(%)	20.0	8.0	28.0		
接種人数	3,123,200	7,104,720	6,402,760		
接種回数	2	1.11	1		
1回投与量(mL)	0.25	0.5	0.5		
使用本数	1,561,600	3,943,120	3,201,380		合計本数 8,706,100

注1) 乳幼児・小学生は0～12歳。成人等は13～64歳。高齢者は65歳以上。

注2) 人口は総務省統計局人口推計による。平成18年度の人口は、平成17年度の人口を使用。

注3) 乳幼児・小学生の1回投与量は、薬事法上、0歳が0.1mL、1～5歳が0.2mL、6～12歳が0.3mLとなっていることから、これらの平均値(0.25mL)を用いた。

注4) 平成13、14年度の高齢者の接種率は、結核感染症課が調査した予防接種実施率を使用。平成15、16、17年度の高齢者の接種率は、血液対策課が調査した高齢者予防接種状況調査の結果を参考にした。

注5) 平成13～17年度の乳幼児・小学生及び成人等の接種率は、医療機関調査及び世帯調査の接種率を参考に、あてはめたもの。

(参考資料4) インフルエンザワクチン使用量の増加率に基づく平成18年度使用量推計

